

テーマ別パスファインダー



語用論（Pragmatics）テキスト・ガイド



✦ パスファインダーとは？

Pathfinder（パスファインダー）とは、探検者／草分け／開拓者の意。レポート作成や論文作成で、何をすればいいのか、どこへ行けばいいのかわからない！そんな人のための助けになるように作成した、学問の「道しるべ」です。

作成日：2024年3月29日

大阪大学 外国学図書館 | 箕面キャンパス |
ラーニングコモンズ るくす | LSチーム

I. イントロダクション

＜ 語用論 (Pragmatics) とは？

文脈を加味した意味を扱い、言語の運用される様を問う分野です。統語論や形式意味論から取りこぼされてきた現象・トピックの、寄せ集めから始まったとされています。言語哲学に端を発し、認知言語学や社会言語学との接点を持ち、談話分析へ知見が応用されるなど、近接諸領域と幅広いつながりを擁します。

そのため、テキスト・入門書・概説書の類いを読むのであれば、ぜひ2冊以上あたることをオススメします。おおよその土台こそ共有しながらも、何をどこまで扱うかという姿勢や立場が、筆者・編者によって非常に異なるからです。それに応じて、用例に割かれる紙幅も変わってきます。一方、専門の大型事典や概況報告を集めたハンドブックは、自らの関心がどこにあるのか定まってきて、各々のトピックや下位分野をもっと知りたいと思った時にあたるとよいでしょう。

何を知りたいかで教科書を選ぶ

語用論は大まかに二分できると言われています。理論を基盤とする狭いマイクロな捉え方、それらを観点として見る広いマクロな捉え方の、いずれを採用しているかで、教科書にも得手不得手が見られるのです。言い換えれば、特定の言語現象の体系化と、それらが使われる様子の分析、どちらに深く関心を寄せるかによって、2冊目、3冊目に読むべき本も変わってくるでしょう。例えば、初学者が日本語で手に取れるものを中心に何冊か分布させると、左図のようになります。



関係分野：言語哲学、形式意味論、認知言語学、社会言語学、談話分析

II. 見取り図なしには始まらない ～広く浅くトピックを知るには

まず分野の全体像を知りたい時は、入門書の第一章や専門事典の巻頭を読み比べてみるのがベターです。

＜ 加藤重広、澤田淳編 (2020) 『はじめての語用論：基礎から応用まで』 研究社

イントロダクションを通じ、その分野にどのような視座からの議論を含めているのか、知ることができます。第二章以降は下位分野の各論です。幅広く紹介する分だけ、それぞれ紙幅も限られており、より込み入った詳細に関しては、下記に挙げる別の本をご覧ください。

【外国図-4 階開架 801||1830】

III. まず、どのような現象が扱えるか？ ～理論としての体系化を目指して

ダイクシス、前提、推意、発話行為、(イン)ポライトネス、談話の構造といった、ある言語現象の体系に習熟したいという場合は、下記のような概説書があります。音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論に連なる、一般言語学の下位分野として、いかなる位置づけにあたるのかを知ることができるでしょう。

＜ アラン・クルーズ (2012) 『言語における意味：意味論と語用論』東京電機大学出版局，片岡宏仁訳

認知言語学の観点を交え、意味に関する二つの領域を網羅する、頼もしい構成です。読み進むためのヒントがあるため、あらかじめ出版局のページ〈<https://www.tdupress.jp/book/b350313.html>〉に目を通しておくのがよいと思います。【総合図-A棟4階 学習用図書 801.2||CRU】

＜ Huang, Yan (2014) 『Pragmatics』, 2nd. ed. Oxford University Press.

整理の行き届いた一冊です。前半は現象ごとの各論に割かれ、後半は統語論・意味論との接続に注力されています。翻訳こそありませんが、定評のある教科書です。【総合図-書庫棟 研究用図書 801//HUA】

＜ Yule, George (1996) 『Pragmatics』 Oxford University Press.

新書程度のボリュームで手頃です。基本的な知見がコンパクトにカバーされています。もし英語で文献を読みたいと思ったら、これで言い回しに慣れてから、古典の詳細や最新の議論に進むとよいでしょう。

【総合図-A棟4階 学習用図書 801||YUL】

IV. 分析の観点として使うと何が言えるか？ ～言葉の使われ方を解き明かそう

上記で扱われていたような知見を包摂し、言語使用の側面から語用論を広く捉える立場もあります。その代わりに、前節で紹介した本が説くような事項はある程度の予備知識として要求されることとなります。

＜ ヤコブ・L・メイ (2005) 『批判的社会語用論入門：社会と文化の言語』三元社，小山亘訳

前半は現象に関しての各論、後半が社会・文化における応用編です。テキストとしては珍しく、文学研究との橋渡しも試みられています。例えば Chapman, Siobhan (2011) 『Pragmatics』 Palgrave Macmillan. 【総合図-書庫棟 研究用図書 801.01//CHA】での扱いと、比べてみるといいかもしれません。

【外国図-4階開架 801||1625】

＜ Gunter Senft (2017) 『語用論の基礎を理解する』開拓社，石崎雅人，野呂幾久子訳

言語人類学や社会言語学との接続に比重が置かれた一冊です。フィールドワーカーである著者らしく、採集されている用例も英語圏に限りません。改訂版の翻訳も出ています。【外国図-4階開架 801.06||223】

◀ **ジェフ・ヴァーシューレン (2010)『認知と社会の語用論：統合的アプローチを求めて』** ひつじ書房, 五十嵐海理 [ほか] 訳

伝統的に扱われてきた概念を手短に紹介した後、それらを踏まえた上で言語によって伝達・解釈が行われる様をどのように分析していけるのか解きほぐしていく、ユニークな構成になっています。

【外国図-4 階開架 801.06||194】

V. 二つの語用論、接点はどこに

なお、中には理論と観点の二つを折衷する方向で構成された概説書も出ています。

◀ **ジョナサン・カルペパー, マイケル・ホー (2020)『新しい語用論の世界：英語からのアプローチ』** 研究社, 加藤重広, 滝浦真人, 東泉裕子 訳

従来の議論を紹介した後に、必ず相互行為の側面から総括されるのが特徴です。基本的に英語から用例が取られており、フィクション・ノンフィクション問わず、事例が豊富で非常に読みごたえがあります。

【外国図-4 階開架 835||605】

◀ **ジェニー・トマス (1998)『語用論入門：話し手と聞き手の相互交渉が生み出す意味』** 研究社, 田中典子 [ほか] 訳

意味はやりとりの中で解される、という認識に基づいて書かれた中では読みやすく、手に取りやすい一冊。ただし、分野として標準的に扱うトピックのうち、ダイクシスなど立項して載せていないものがあります。用例は英語が中心です。【外国図-4 階開架 801||1486】

✧ [パスファインダーの凡例]

◀ 図書の情報は以下の順に表記しています。(主に論文の参考文献に使われている書式です。)

著者名 (出版年)『本の名前』 出版社名, 翻訳者名 (あれば)

◀ 説明の最後に、【 】で貸し出し可能な図書館と配架場所、請求記号を記しました。

総合図 → 総合図書館 (豊中キャンパス)

生命図 → 生命科学図書館 (吹田キャンパス)

理工学図 → 理工学図書館 (吹田キャンパス)

人図 → 人間科学研究科図書室 (吹田キャンパス)

外国図 → 外国学図書館 (箕面キャンパス)

外国図-雑誌 → 直近1~2年に出版されたものは3階雑誌コーナー、バックナンバーは1階書庫

電 → 電子ジャーナル、電子ブック

※雑誌、電子ジャーナルは、すべての巻号が利用できるとは限りません。

◀ 外国学図書館を中心に紹介していますので、記載している場所以外でも貸し出し可能な場合があります。図書館各階にある検索端末で確認するか、カウンター/LS デスクまでお尋ねください。